

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|---------------|
| 事業所番号 | 2294200544 | | |
| 法人名 | ㈱宇宙SORA | | |
| 事業所名 | グループホーム ハーモニーみずほ | | |
| 所在地 | 静岡県静岡市駿河区みずほ2-5-8 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 29年 10月 19日 | 評価結果市町村受理日 | 平成 30年 2月 19日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JgyosyoCd=2294200544-00&PrefCd=22&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 静岡タイム・エージェント | | |
| 所在地 | 静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階 | | |
| 訪問調査日 | 平成 29年 11月 21日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者個人のこれまでの生活習慣を大切にしながらも「おはよう、今日もよろしく」「おやすみ、また明日ね」と共に暮らす「家族の和」ができています。自治会でホーム通信を毎月回覧して頂いており、古着の寄付の願いを記載したところ近隣の方が届けて下さる事が増えありがたく利用させて頂いています。これからも入居者本位のケアを心がけ「くつろいで過ごす居場所があり 笑いの絶えない第2の我が家」となるよう支援をしていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

着任して3年目を迎える管理者は、利用者の個々の思いを把握して、その人本位のケアをすることで事業所が居心地のよい居場所になれるよう、職員と話し合っており、気づきノートの活用等から職員の発言も多くなり、ミニ菜園を作りたいとの意見を取り入れ、利用者も一緒に水遣りや収穫をして食卓に載せるようになっていく。一緒にヘアカラーを購入して染髪を施す支援や、少量ではあるが本人が決めた喫煙や晩酌の希望を見守りながら叶えている等反映することで、入居時に帰宅願望が強かった人が今では「ずっと此処にいたい」と変わってきている。継続して事業所からの通信を回覧してもらえ、住民の理解や関心も増えてきて直接見学に来たり、古着やウエスなどを持ってきてくれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 基本理念を玄関、フロアに掲示しており、毎朝の申し送り時に職員で唱和し実践に努めている。 | 法人の基本理念・運営方針・ケア理念など年1回職員に書面を配布しミーティングで話をしている。毎朝の唱和で、職員は理解し利用者の個々の思いを感じてケアに繋げている。事業所独自の理念はない。 | 地域密着型サービス事業所として、職員間で話し合い、独自の理念を作り実践に繋げていけるよう期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 自治会の行事に入居者様と一緒に出来る限り参加し交流をしている。町内会の回覧板に毎月のホーム通信を入れて回して頂いている。 | 自治会の運動会や防災訓練・祭り等利用者と一緒に出かけ交流している。ホーム通信の回覧を見て、直接見学に訪れてきたり、古着やウエスの差し入れがある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ホーム通信に生活の様子を記載し回覧して頂いている。また近隣の高齢者が自身で見学や相談に来られる事もある。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し近況を報告している。ホームミーティングにて運営推進会議の内容や意見を職員に伝えサービスの向上に活かしている。 | 包括支援センター職員・自治会長・民生委員。年1回は職員が参加して2ヶ月に1回開催している。家族に案内や議事録の郵送をしている。家族に曜日を変えての開催や工夫をして参加を促しているが、参加は難しい。「認知症・精神疾患の支援対応」について話し合い意見を聞いている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議の案内を送り欠席の際は議事録を送っている。生活保護者の担当者には毎月書類を持参し様子を伝え連携が図れるようにしている。また市の相談員の受け入れを今年より始め、入居者様の相談にのって頂いている。 | 毎月の介護相談員の受け入れにより、外部の人の意見を聴けるようになり、入居者の変化に気づかされた。包括支援センター職員は交代で会議に参加してくれ、意見を聞いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 居室やユニット出入口に施錠はしていない。外出の希望にできるだけ添えるよう付き添っている。防犯上 夜間のみ(20時～6時位)玄関に鍵をかけている。ミーティングで学ぶ機会を設けている。 | 玄関に「徘徊バック」と名付けた「小銭入れ・日傘・カイロ・名札・メモ用紙」などを入れたリュックサックが用意されて、出かけた人の急な行動に対応している。表情を見逃さず、落ち着かなくなったら「買い物に誘う」や話を聞いて、その人が穏やかに過ごせるようなケアに努めている。 | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 言葉など気になる事はその都度注意している。 ミーティング課題として記載しホーム内ミーティングにて話しあう機会をもうけている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護を利用している入居者様もいる為職員にはミーティング時に制度について学ぶ機会を設けている。また入居者様のご家族等に必要に応じ説明をしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前の面談時にご家族やご本人と話し、不安を解消できるよう努めている。 入居時、契約書等の読み合わせに補足を加えながら説明し同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議の案内を送り話し合う機会を設けている。ご家族の面会時にご本人、職員と話しをして日頃の様子を伝え要望を聞いている。ユニット入口に意見箱の設置をしている。 | 煙草や晩酌が楽しみな利用者の意向を反映している。食後に果物やゼリーを食す習慣がある利用者に、家族の意向を聞いて自室で食べられるよう支援している。入浴したことや果物やゼリーを渡されたことを忘れてしまう対策として、自筆でサインをしてもらうことで納得できている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日の申し送りやミーティング課題用紙を使用し事前に意見を聞き 毎月のミーティングにて話しあっている。全職員へミーティングの決定事項等を書面で周知している。 | 職員の提案でミニ菜園を始め、職員の親も協力し野菜を植えて、草取りや水遣りなど利用者も一緒に参加している。職員の「水分量が少ないのでは」の意見から、本人が好みそうな飲み物を小遣いから購入している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 希望休を含め有給を活用できるなど、職員各々の相談にのり、勤務が続けやすいように配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各々の職員の力量を把握し必要に応じて職員に同行し指導、助言をしている。 社外の研修の案内を全職員が閲覧できるようにしている。 | | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域の小規模ホームの連絡会に参加して情報交換をしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の初回面談時に時間をかけアセスメントしている。入居後もご本人の話に傾聴し不安の解消、要望の聞き取りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学や初回面談時にご家族の不安や意向を聞きケアに活かしている。また 気になる事はいつでも連絡頂けるよう伝えている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | アセスメント時にご本人、ご家族と話しニーズを聞き職員に伝え対応している。他のサービスが必要な場合もご家族と相談しながら検討している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人のできる事は見守り、家事等できる事は一緒に行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や電話で普段の様子や健康状態を伝え、穏やかに生活が送れるよう連携を図っている。ご本人からご家族への伝言なども管理者より伝え、ご家族の協力も得る事ができている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 親類、友人等の面会についてご家族に確認し、可能な限り対応している。以前利用していたデイ等に出向き懐かしい友人や職員と会う機会を設けている。 | 職員は、近所の友人や宗教関係の知人が面会に来た時「又、来て下さい」と声をかけている。読みなれた新聞の購読や、漫画本の全集を多数居室に置いて読んでいる人、喫煙・晩酌など以前からの生活習慣を継続して出来ることで、その人らしく過ごせるよう支援をしている。 | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様の関係性を把握し 食卓の席やソファー席など変更したり配置換えをしている。見守りが基本だが必要時には入居者間に入り支援している。カラオケやイベントなどを通して入居者同士が支えあえるよう声かけをしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ご本人の面会に伺ったり、ご相談の連絡を頂く事がある。また「ウエスに使う」とタオルなど寄付して頂いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 会話の機会を多く持ち 意向を聞けるよう努めている。ご本人が言葉で伝えられない場合も表情などで気持ちをくみ取るようにしている。 | 入浴時やトイレ介助・リビングなど1対1の時や、テレビを見ている利用者同士の会話等から思いや意向を聞くことが多く、職員間で共有している。不安定な思いを聞き、一緒に買い物をして、好みの色で毛染めをして気分転換をした。困難な場合は、身体状況から思いばかり検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 見学や面会時にご本人、ご家族から聞き取り、職員間で情報共有している。入居前に可能な限りケアマネから情報を頂いている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の個人記録や健康チェック表などを活用し現状の把握に努めている。毎朝の申し送り、毎月のミーティングにて情報の共有をし必要であればケアの見直しをしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人、ご家族の意見も面会時等に確認し、往診時に主治医の意見も聞いている。ミーティング時に担当者会議を行い それぞれの意見をまとめ職員間で話し合い計画書を作成している。 | 半年ごとに見直しを行い、変化があればその都度職員間で話し合い、家族や本人の意向を確認して現状に即した介護計画書をケアマネジャーが作成し、家族に確認をもらっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録や健康チェック表などを記入し、また普段みられない言動がみられた時などは特記として介護日誌にも記入して全職員で情報共有している。担当者会議でケアの見直しを行っている。 | | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 身体状況などを確認しながら 福祉用具などご家族に相談し利用している。ご家族が対応できない通院なども支援している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | シニアボランティアの方々が2ヶ月に1回楽器演奏に来て下さる。地域の運動会やお祭りに入居者様と参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人、ご家族の希望で従来のかかりつけ医への受診を続ける事も可能であり、変更も受けている。 提携医の定期往診は月2回。急変等の臨時往診や電話での24時間対応でいつでも指示を仰げるような体制となっている。 | 現在は全利用者が提携医をかかりつけ医としている。月曜日から金曜日までいつでも往診が可能で、安心した医療を受けられている。精神科の専門医や眼科等他科受診は基本家族だが、行かれない場合は有料で職員が対応している。協力医の訪問歯科も来ている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に1回看護師が勤務しており 1週間の変化を伝え相談している。提携医からの指示に従い適切な医療処置を行ってもらっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時 介護サマリーで詳しい情報を伝え、また相談員と面会時や電話などで連絡を取り合い退院後の受け入れ態勢を整えている。ご家族と連携をとり早期退院ができるよう支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居の契約時に説明をしご本人やご家族の希望も聞いている。重度化となる可能性が高い方は早期の段階でご家族、医師、看護師、薬剤師、ホーム管理者等で話し合い契約し看取り介護に取り組んでいる。 | 入居時に事業所の指針を説明して意向を確認している。食欲がない、今までやれていたことが出来なくなった等の変化が見られるようになったら医師の診断を受け、医師・家族・管理者で話し合いを行い、家族の協力と理解が得られた時、職員と共にチームで支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の後 対応について職員に指導している。ミーティングで対応について再度話し医師や看護師からもアドバイスを受けている。提携医とは24時間電話にて連絡が取れる体制となっている。 | | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、地震、火災等を想定し行っている。日頃より管理者から消火器や火災報知機的位置の確認を職員に伝えている。地域の防災訓練にも参加予定。 | 4月は夜間想定地震と火災訓練、11月は昼間の地震から火災の訓練をし、職員を利用者にみたくダンボールを使って階段から避難する訓練を行った。地域の防災訓練に利用者と一緒に参加し、自治会長に災害時の高齢者の受け入れについて話をしている。 | あらゆる災害に備えて、昼夜を想定した実践的な訓練について職員で話し合い、地域との協力体制を築いていくことに期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりにあった言葉かけを心がけている。排泄の確認などもプライバシーを損ねないように他入居者に聞こえない程度の声量で行っている。 | 呼び名は本人の希望で家族には了解を取って「・・・ちゃん」があったり、あまり堅苦しくはしないで、穏やかな対応に心がけている。入浴時やトイレ介助はプライバシーに配慮して損ねないような声のトーン、さり気なく本人の気持ちになって対応するようにしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日頃より会話の中から思いを聞き 申し送りなどで職員間で情報共有している。洋服なども自分でコーディネートされたり、選んで頂けるように支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事や入浴、レクリエーション等 声かけはするが無理強いはずご本人のペースで過ごして頂いている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 3ヶ月に1度美容師が訪問しご本人の希望に添いヘアカットを行っている。必要であれば洗面や整髪など介助している。男性には毎朝電気シェーバーで髭そりを行って頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 彩りよく盛り付けをしたり ご本人の食べやすい器でその方にあった食事形態の物を提供している。お皿洗いやお盆拭きなど一緒にやっている。 | 3食共食材が届き、職員が手作りしている。ミキサー食や刻み等その人に合わせた形状にし、提供している。声掛けや促しで、できるだけ自力で食べられるように、席の配置に配慮して食事に集中して楽しめるように支援している。今年から菜園での野菜を食卓に載せている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 決まった食材でカロリー計算されたレシピで調理しているため栄養バランスはとても良い。健康チェック表に摂取量を記入し必要量が確保されているか意識しながらケアを行っている。 | | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後歯磨きやうがいを行っている。義歯もその都度外して洗い、夜間にはお預かりして洗浄液に付ける。ブラシやスポンジ、口腔ティッシュなどその方にあった物を使用している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し時間を見て誘導、声かけを行っている。変化の見られた時は職員間で話し合い誘導時間の間隔や尿量によりパッドなど見直しを行っている。 | 布パンツ使用で自立度の高い利用者が多いが、時間での声掛けや付き添い、見守りなど一人ひとりのその日の状態に合わせて対応し、トイレでの排泄を支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事量、水分量を確認しその方の排便リズムを把握したうえで腹部マッサージやホットタオルで排便を促すよう努めている。また主治医の指示のもと処方薬の調整を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 拒否の多い方は原因を探ると同時に、ご本人の入りたい時間帯、湯の温度など職員間で情報共有してできる限り希望に添うよう支援をしている。入浴の有無を忘れてしまう方の為 入浴表を使用する事もある。 | 朝9時半から16時までの間に、拒否があれば気が向いた時に進めたり、入浴表を見せて促し、相性のよい職員との会話が弾んで楽しめるよう支援をしている。個々の湯の温度や入浴時間の長さ等職員間で共有している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご本人のペースで過ごして頂いており、自由に居室で休息をとれる状況にしている。介助での移動の方はその日の体調により休息の時間が異なることもある。日中の臥床については夜間の睡眠の妨げにならない程度に離床の声かけを行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬情に目を通し理解するよう指導している。処方薬の変更は申し送りと管理日誌に記入し全職員に周知し、経過を申し送りで報告している。誤薬を防ぐためにセット時の確認、配薬前後の確認を毎回異なる職員でWチェックを行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個人の得意な家事や作業を把握し、行って頂けるよう声かけをしている。嗜好品も可能な限り対応し楽しみを持って過ごせるよう努めている。 | | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | できる限り希望に添えるようご本人と時間を決めるなどして対応している。ホームで難しい場合はご家族に伝え対応をお願いしている。プチ菜園の水まきや収穫を職員と一緒にやっている。 | 担当職員が話を聞いて、「今は行けないけど何時位なら一緒に行けるよ」と納得してもらい近くのマーケットへ欲しいものを買いに付けている。レクで春の花見やクリスマスイルミネーションを見にドライブで出かけている。ベランダや駐車場での外気浴をしている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 紛失や物取られ妄想などトラブルをさける為基本管理者がホームの金庫にて管理をしている。不明瞭な買い物が発生しないようお小遣い帳に品名を記入し、コピーやレシート等をご家族に毎月送付している。またご家族の承諾のもとご本人に少額を所持してもらい安心して過ごせるよう支援をしている方もいる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族の承諾を得ている方はご本人の希望時にかける事ができるよう支援をしている。絵手紙を入居者様に提案しても拒否され、出される方はいない。届いた物はご本人にお渡ししている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 床や手すりなどはヒシクリン液にて毎日清掃を行っている。エアコンやカーテンなどで室温や明るさなど不快とならない環境作りに配慮している。季節感のある貼り絵などを入居者様と一緒に作成し壁に掲示している。 | 3台の丸テーブル。テレビの前の大きなソファ、横になれる椅子、近所のベランダに干し柿の見える広い窓の前にも椅子があり、利用者は好きな場所で寛いでいる。居間の中心にオープンキッチンがあり、全体を見守りながら作業が出来、調理のいい匂いが食欲を増している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングやダイニングにて自由にくつろいで頂き、他者との会話を楽しんだり、個人で新聞をご覧になれるよう支援をしている。また車いすの方も過ごしやすく家具の配置も工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時になじみの物をお持ち頂けるようご本人、ご家族にお話ししている。居室内は自由にお使い頂き、ご家族のお位牌や写真をお持ちになられている方もいる。 | 入居前からの習慣で床にマットと布団を敷いている利用者がある。仏壇や家族の写真、漫画全集、アルバムなど馴染みの品々を持ち込み、居室担当者が衣替えや掃除などの手伝いをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 言葉かけや文字など、各入居者様に分かりやすいように工夫している。必要以上の支援にならない様 その方の「できる事」を職員間で共有し見守り、自立支援を心がけている。 | | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|----|------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| | | | | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--------------|
| 事業所番号 | 2294200544 | | |
| 法人名 | ㈱宇宙SORA | | |
| 事業所名 | グループホーム ハーモニーみずほ | | |
| 所在地 | 静岡県静岡市駿河区みずほ2-5-8 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 29年 10月 19日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年 2月 19日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.katgokensaku.hhlw.go.jp/z/z/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ligvsvocd=2294200544- |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------|
| 評価機関名 | 株式会社 静岡タイム・エージェント |
| 所在地 | 静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階 |
| 訪問調査日 | 平成 29年 11月 21日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>入居者個人のこれまでの生活習慣を大切にしながらも「おはよう、今日もよろしく」「おやすみ、また明日ね」と共に暮らす「家族の和」ができています。自治会でホーム通信を毎月回覧して頂いており、古着の寄付のお願いを記載したところ近隣の方が届けて下さる事が増えありがたく利用させて頂いています。これからも入居者本位のケアを心がけ「くつろいで過ごす居場所があり 笑いの絶えない第2の我が家」となるよう支援をしていきます。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|----------|
| <p> </p> |
|----------|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 基本理念を玄関、フロアーに掲示しており、毎朝の申し送り時に職員で唱和し実践に努めている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 自治会の行事に入居者様と一緒に出来る限り参加し交流をしている。 町内会の回覧板に毎月のホーム通信を入れて回して頂いている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ホーム通信に生活の様子を記載し回覧して頂いている。また近隣の高齢者が自身で見学や相談に来られる事もある。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し近況を報告している。 ホームミーティングにて運営推進会議の内容や意見を職員に伝えサービスの向上に活かしている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議の案内を送り欠席の際は議事録を送っている。生活保護者の担当者には毎月書類を持参し様子を伝え連携が図れるようにしている。また市の相談員の受け入れを今年より始め、入居者様の相談にのって頂いている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 居室やユニット出入口に施錠はしていない。 外出の希望にできるだけ添えるよう付き添っている。防犯上 夜間のみ(20時~6時位)玄関に鍵をかけている。ミーティングで学ぶ機会を設けている。 | | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 言葉など気になる事はその都度注意している。 ミーティング課題として記載しホーム内ミーティングにて話しあう機会をもうけている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護を利用している入居者様もいる為職員にはミーティング時に制度について学ぶ機会を設けている。また入居者様のご家族等に必要に応じ説明をしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前の面談時にご家族やご本人と話し、不安を解消できるよう努めている。 入居時、契約書等の読み合わせに補足を加えながら説明し同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議の案内を送り話し合う機会を設けている。ご家族の面会時にご本人、職員と話しをして日頃の様子を伝え要望を聞いている。ユニット入口に意見箱の設置をしている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日の申し送りやミーティング課題用紙を使用し事前に意見を聞き 毎月のミーティングにて話しあっている。全職員へミーティングの決定事項等を書面で周知している。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている | 希望休を含め有給を活用できるなど、職員各々の相談にのり、勤務が続けやすいように配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各々の職員の力量を把握し必要に応じて職員に同行し指導、助言をしている。 社外の研修の案内を全職員が閲覧できるようにしている。 | | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域の小規模ホームの連絡会に参加して情報交換をしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の初回面談時に時間をかけアセスメントしている。入居後もご本人の話に傾聴し不安の解消、要望の聞き取りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学や初回面談時にご家族の不安や意向を聞きケアに活かしている。また 気になる事はいつでも連絡頂けるよう伝えている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | アセスメント時にご本人、ご家族と話しニーズを聞き職員に伝え対応している。他のサービスが必要な場合もご家族と相談しながら検討している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人のできる事は見守り、家事等できる事は一緒に行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や電話で普段の様子や健康状態を伝え、穏やかに生活が送れるよう連携を図っている。ご本人からご家族への伝言なども管理者より伝え、ご家族の協力も得る事ができている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 親類、友人等の面会についてご家族に確認し、可能な限り対応している。以前利用していたデイ等に出向き懐かしい友人や職員と会う機会を設けている。 | | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様の関係性を把握し 食卓の席やソファー席など変更したり配置換えをしている。見守りが基本だが必要時には入居者間に入り支援している。カラオケやイベントなどを通して入居者同士が支えあえるよう声かけをしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ご本人の面会に伺ったり、ご相談の連絡を頂く事がある。また「ウエスに使う」とタオルなど寄付して頂いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 会話の機会を多く持ち 意向を聞けるよう努めている。ご本人が言葉で伝えられない場合も表情などで気持ちをくみ取るようにしている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 見学や面会時にご本人、ご家族から聞き取り、職員間で情報共有している。 入居前に可能な限りケアマネから情報を頂いている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の個人記録や健康チェック表などを活用し現状の把握に努めている。 毎朝の申し送り、毎月のミーティングにて情報の共有をし必要であればケアの見直しをしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人、ご家族の意見も面会時等に確認し、往診時に主治医の意見も聞いている。 ミーティング時に担当者会議を行い それぞれの意見をまとめ職員間で話し合い計画書を作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録や健康チェック表などを記入し、また普段みられない言動がみられた時などは特記として介護日誌にも記入して全職員で情報共有している。担当者会議でケアの見直しを行っている。 | | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 身体状況などを確認しながら 福祉用具などご家族に相談し利用している。ご家族が対応できない通院なども支援している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | シニアボランティアの方々が2ヶ月に1回楽器演奏に来て下さる。地域の運動会やお祭りに入居者様と参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人、ご家族の希望で従来のかかりつけ医への受診を続ける事も可能であり、変更も受けている。 提携医の定期往診は月2回。急変等の臨時往診や電話での24時間対応でいつでも指示を仰げるような体制となっている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に1回看護師が勤務しており 1週間の変化を伝え相談している。提携医からの指示に従い適切な医療処置を行ってもらっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時 介護サマリーで詳しい情報を伝え、また相談員と面会時や電話などで連絡を取り合い退院後の受け入れ態勢を整えている。ご家族と連携をとり早期退院ができるよう支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居の契約時に説明をしご本人やご家族の希望も聞いている。重度化となる可能性が高い方は早期の段階でご家族、医師、看護師、薬剤師、ホーム管理者等で話し合い契約し看取り介護に取り組んでいる。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の後 対応について職員に指導している。ミーティングで対応について再度話し医師や看護師からもアドバイスを受けている。提携医とは24時間電話にて連絡が取れる体制となっている。 | | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、地震、火災等を想定し行っている。日頃より管理者から消火器や火災報知機の位置の確認を職員に伝えている。地域の防災訓練にも参加予定。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりにあった言葉かけを心がけている。排泄の確認などもプライバシーを損ねないように他人居者に聞こえない程度の声量で行っている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日頃より会話の中から思いを聞き 申し送りなどで職員間で情報共有している。洋服なども自分でコーディネートされたり、選んで頂けるように支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事や入浴、レクリエーション等 声かけはするが無理強いはずご本人のペースで過ごして頂いている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 3ヶ月に1度美容師が訪問しご本人の希望に添いヘアカットを行っている。必要であれば洗面や整髪など介助している。男性には毎朝電気シェーバーで髭そりを行って頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 彩りよく盛り付けをしたり ご本人の食べやすい器でその方にあった食事形態の物を提供している。お皿洗いやお盆拭きなど一緒に行っている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 決まった食材でカロリー計算されたレシピで調理しているため栄養バランスはとても良い。健康チェック表に摂取量を記入し必要量が確保されているか意識しながらケアを行っている。 | | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後歯磨きやうがいを行っている。義歯もその都度外して洗い、夜間にはお預かりして洗浄液に付ける。ブラシやスポンジ、口腔ティッシュなどその方にあった物を使用している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し時間を見て誘導、声かけを行っている。変化の見られた時は職員間で話し合い誘導時間の間隔や尿量によりパッドなど見直を行っている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事量、水分量を確認しその方の排便リズムを把握したうえで腹部マッサージやホットタオルで排便を促すよう努めている。また主治医の指示のもと処方薬の調整を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 拒否の多い方は原因を探ると同時に、ご本人の入りたい時間帯、湯の温度など職員間で情報共有しできる限り希望に添うよう支援をしている。入浴の有無を忘れてしまう方の為 入浴表を使用する事もある。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご本人のペースで過ごして頂いており、自由に居室で休息をとれる状況にしている。介助での移動の方はその日の体調により休息の時間が異なることもある。日中の臥床については夜間の睡眠の妨げにならない程度に離床の声かけを行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬情に目を通し理解するよう指導している。処方薬の変更は申し送りと管理日誌に記入し全職員に周知し、経過を申し送りで報告している。誤薬を防ぐためにセット時の確認、配薬前後の確認を毎回 異なる職員でWチェックを行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個人の得意な家事や作業を把握し、行って頂けるよう声かけをしている。嗜好品も可能な限り対応し楽しみを持って過ごせるよう努めている。 | | |

静岡県(グループホーム ハーモニーみずほ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | できる限り希望に添えるようご本人と時間を決めるなどして対応している。ホームで難しい場合はご家族に伝え対応をお願いしている。プチ菜園の水まきや収穫を職員と一緒にやっている。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 紛失や物取られ妄想などトラブルをさける為基本管理者がホームの金庫にて管理をしている。不明瞭な買い物が発生しないようお小遣い帳に品名を記入し、コピーやレシート等をご家族に毎月送付している。またご家族の承諾のもとご本人に少額を所持してもらい安心して過ごせるよう支援をしている方もいる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族の承諾を得ている方はご本人の希望時にかかる事ができるよう支援をしている。絵手紙を入居者様に提案しても拒否され、出される方はいない。届いた物はご本人にお渡ししている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 床や手すりなどはヒシクリン液にて毎日清掃を行っている。エアコンやカーテンなどで室温や明るさなど不快とならない環境作りに配慮している。季節感のある貼り絵などを入居者様と一緒に作成し壁に掲示している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングやダイニングにて自由にくつろいで頂き、他者との会話を楽しんだり、個人で新聞をご覧になれるよう支援をしている。また車いすの方も過ごしやすく家具の配置も工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時になじみの物をお持ち頂けるようご本人、ご家族にお話している。居室内は自由にお使い頂き、ご家族のお位牌や写真をお持ちになられている方もいる。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 言葉かけや文字など、各入居者様に分かりやすいように工夫している。必要以上の支援にならない様 その方の「できる事」を職員間で共有し見守り、自立支援を心がけている。 | | |